

# 人間関係形成能力を育む教科関連の学び — 交流活動を通して —

教職実践専攻・教育実践開発コース  
学籍番号 18GP504 氏名 山田 なつみ

## I 主題設定の理由

### 1 内閣府の調査報告と学習指導要領解説から

内閣府の「低年齢少年の生活と意識に関する調査報告書」(2007)<sup>1</sup>では、「悩みや心配ごとがあるか」の項目に対し、17.6%の小中学生が、友達や仲間のことで悩みや心配ごとがあると回答している。これは、勉強や進学に次いで2番目に多い悩みとなっており、人間関係形成が課題となっていると言える。

また、小学校学習指導要領解説特別活動編(2017)<sup>2</sup>では、目標の一つとして「自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成する」ことが示されている。さらに、小学校学習指導要領解説総則編(2017)<sup>3</sup>では、育成を目指す資質・能力である「学びに向かう力、人間性等を涵養する」ことの中で、「主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等」の必要性が明記されている。このことから、人間関係形成能力を教育活動全体で育成することが求められ、特別活動のみならず教科等全てで育むことが望まれていると言える。以上を踏まえ、小学校で教科横断的に人間関係形成能力を育むことについて研究することは有意義であると考ええる。

### 2 先行研究から

河村(2007)<sup>4</sup>は、「学習意欲と人間関係を形成する意欲がどちらも高い両立タイプの子どもが、さまざまな面で健全な発達をしている」と述べている。また、「学習と人間関係形成の意欲を育てるには、友達と学び合う場を大事にする。」とも述べている。このことから、児童の学び合う場となる交流活動を設定し、実践的に人間関係を形成するよさを実感することにより、児童の社会的な発達につながると考える。

## II 主題の意味

### 1 人間関係形成能力とは

人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成する能力のことである。

本研究では、日本特別活動学会の調査研究<sup>5</sup>であげられた16の人間関係形成能力を、7つの要素に分類した(図1)。そして、認める・助ける・励ます・協力する・思いやる・コミュニケーションを基礎的な能力と捉え、その他の力を発展的な能力として設定した。また、基本的な人間関係形成能力の要素の関係性を図2のように考え、まずは基本的な能力を育むことを目指して研究を行った。

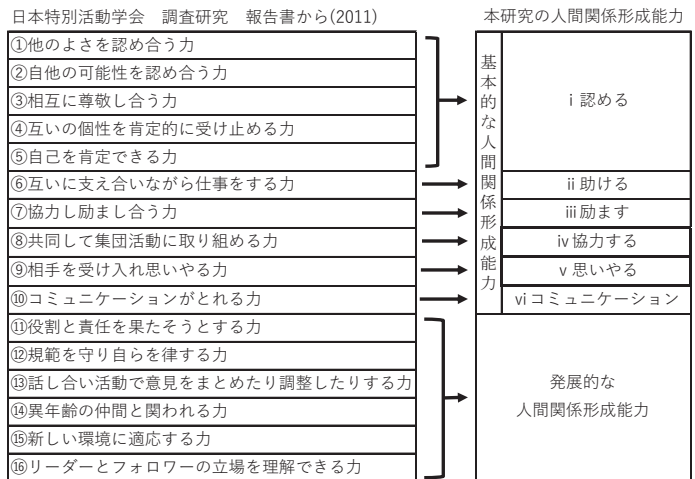


図1 本研究の人間関係形成能力の設定

### 2 教科関連の学びとは

人間関係形成の単位として各教科等を横断的に関連させながら構成する学びのことである。

### 3 交流活動とは

アドバイスをし合う、意見交換をする、教え合う、話し合っ決めてという活動のことである。活動形態としては、全員・グループ(6人・4人)、ペアを設定している。

### III 研究の目標

各教科等を関連させた学びを通して、児童の人間関係形成能力を育てる学習を究明する。

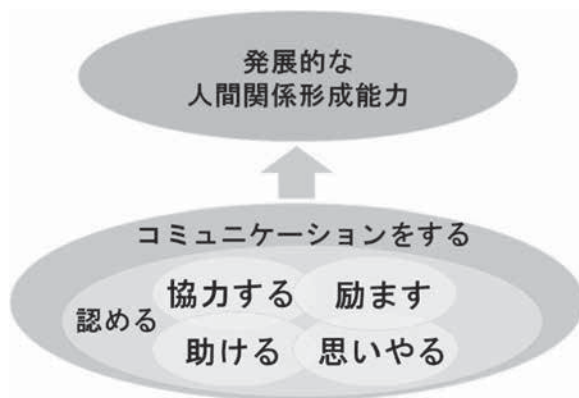


図2 本研究の人間関係形成能力の関係図

### IV 研究の仮説

人間関係形成単元を教科横断的に構成し、実践的な活動を活発になるように工夫すれば、児童の人間関係形成能力が育つだろう。

### V 研究の構想

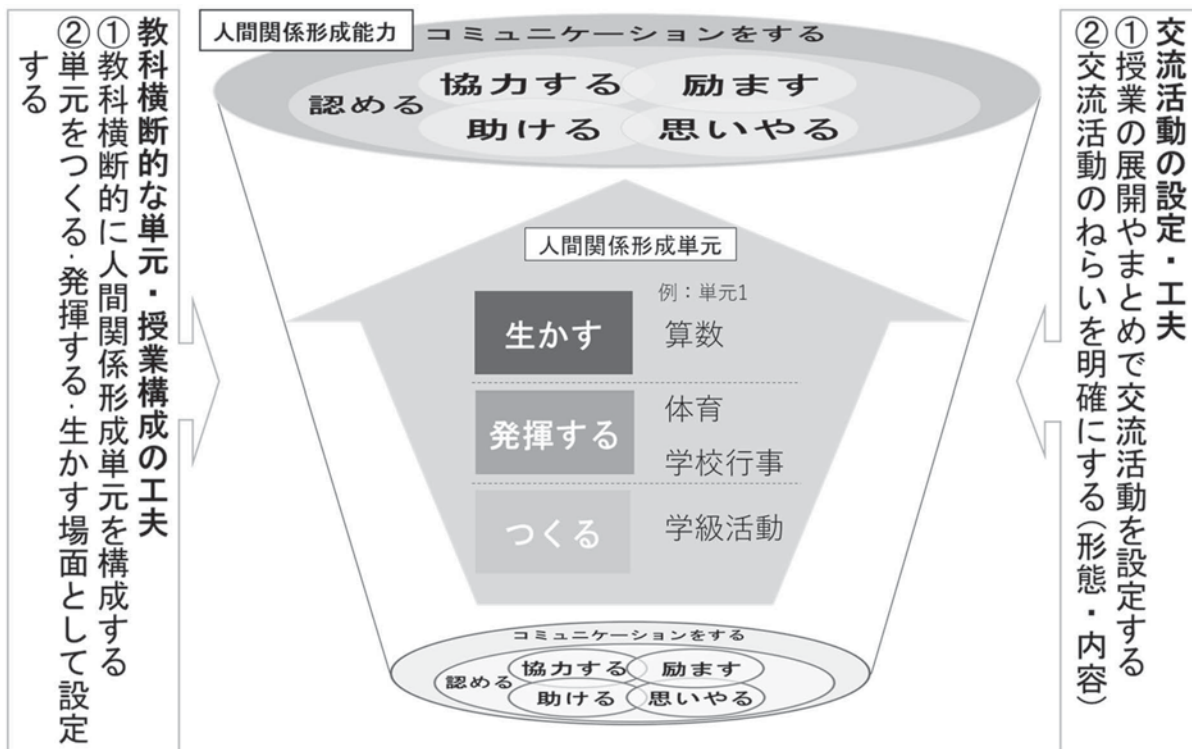
#### 1 教科横断的な単元構成の工夫

人間関係形成能力を育てるために、①教科横断的に人間関係形成単元を構成する。  
②単元をつくる・発揮する・生かす段階として設定する。

#### 2 交流活動の設定・工夫

人間関係形成能力を育てるために、①授業の展開やまとめで交流活動を設定する。  
②交流活動のねらいを明確にする。

#### 3 研究構想図



### VI 検証授業に向けての構想

- ねらい 仮説に基づく実践授業から、資料収集及び分析を行い、仮説検証する。
- 対象 A市立B小学校 第6学年2組 23名

- 3 期 間 ①2019年5月9日－5月31日(人間関係形成単元1)  
 ②2019年8月27日－8月30日(人間関係形成単元2)  
 ③2019年9月2日－9月9日(人間関係形成単元3)

4 方 法

研究仮説を検証するために、人間関係形成単元1～3の授業を実施すること、人間関係形成単元1の事前と事後、2と3の事後に「学校生活アンケート」を実施することで資料収集する。また、人間関係形成単元2と3は、授業後に人間関係形成の「学習ノート」の記入を実施し資料収集する。

5 資料収集の内容と方法

人間関係形成単元における学びにおいて、交流活動を工夫することによって、人間関係形成能力を高めること(以下の2点)について検証するためのデータを収集する。

- ①他教科や学校生活において人間関係形成能力を生かすことができたか  
 ②活発な交流活動を行うことができたか

【方法】○児童の様子を観察 ○事前・事後のアンケート  
 ○学習ノートの記述(レーダーチャート・交流活動の振り返り)

VII 授業の実際

- 1 単元名 人間関係形成単元1(協力する)：全4時(学活, 学校行事, 体育, 算数)  
 人間関係形成単元2(思いやる)：全5時(体育, 国語, 道徳, 算数, 学活)  
 人間関係形成単元3(思いやる)：全5時(学活, 道徳, 学校行事, 社会, 体育)

2 単元構成の考え方及び単元計画

(1)単元構成の考え方

本研究における単元構成は、まず、ねらいに応じて、学校行事や道徳を中核として発揮する段階に位置づける。次に、教科等の特質を考慮し配列する。図3は、教科等の特質を考慮し、人間関係形成能力を育成する視点で、学習内容と学習方法に関わるものに分類している。図4は、段階ごとのねらいと配列した教科等を表したものである。

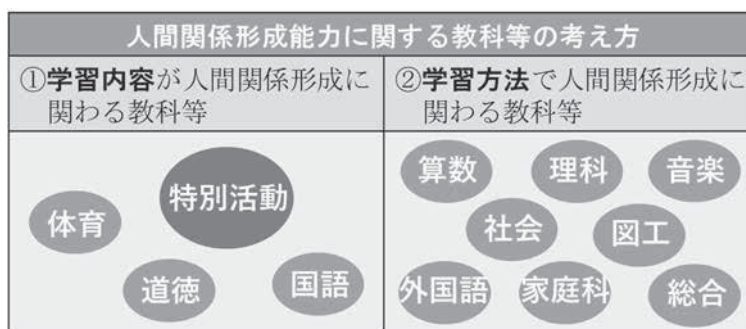


図3 人間関係形成能力に関する教科等の考え方

段階	つくる	発揮する	生かす
教科等	①学習内容		②学習方法
	特別活動(学級活動)	特別活動(学校行事)	学活
	体育		算数 音楽
	道徳		理科
	国語		社会 図工
			家庭科
			外国語 総合
ねらい	人間関係形成能力を 価値づける	人間関係形成能力を 発揮する	人間関係形成能力の よさを実感する
	人間関係形成能力の 楽しさを味わう		人間関係形成能力を生か そうとする意欲を高める

図4 人間関係形成単元における授業構成の考え方

## (2) 単元計画

① 人間関係形成単元 1 (iv 協力する) 目標:「交流活動を通して協力する力を高めよう。」

段階	導入	展開 1	展開 2	まとめ
	つくる	発揮する		生かす
	1 次	2 次	3 次 (事例 1)	4 次
ねらい	価値づけ	発揮する	よさ実感・意欲	よさ実感・意欲
教科等	学級活動 1/1	<b>学校行事</b>	体育 1/1	算数 6/9
題材/教材	運動会のめあて	運動会	体づくり運動	分数のかけ算
目標	・協力するために、 <b>学級全体の目標を個人の目標に掘り下げて考えることができる。</b>	・めあて達成のために協力する力を発揮しようとする。	・ルールを守り、 <b>仲間と協力して運動</b> をしようとする。	・計算のきまりを使って分数のかけ算を <b>グループで協力しながら解く</b> ことができる。
交流活動	全員で 6 年生としてのめあてを話し合っている。		4 グループで話し合っている <b>体の動かし方や作戦を工夫</b> する。	6 グループで分数のかけ算を教え合う。

② 人間関係形成単元 2 (v 思いやる) 目標:「交流活動を通して思いやる力を高めよう。」

段階	導入	展開 1	展開 2	まとめ	
	つくる	発揮する		生かす	
	1 次	2 次	3 次	4 次	5 次 (事例 2)
ねらい	価値づけ・楽しさ	発揮する	発揮する	よさ実感・意欲	よさ実感・意欲
教科等	体育 1/8	国語 3/4	<b>道徳 1/1</b>	算数 2/10	学級活動 1/1
題材/教材	表現運動	心を見せる言葉	ロンゾの友達	円の面積	トラブルの解決 (SEL <sup>®</sup> )
目標	・ <b>相手が気持ちよくなるようなアドバイス</b> をすることができる。	・ <b>言い方によって感じ方が違う</b> ことを知ることができる。	・登場人物の心情から考え、 <b>自分なりの考え</b> を出すことができる。	・ <b>友達の考えを認めたり、参考</b> にしたりすることができる。	・トラブルを <b>自分や相手のことを考えながら対処</b> しようとする。
交流活動	ペアで踊りを見てアドバイスし合う。	ペアで話し方についてロールプレイする。	6 グループで本当の友達について意見交換する。	6 グループで円の面積の求め方を考える。	6 グループで <b>トラブルの解決方法</b> について意見交換する。

③ 人間関係形成単元 3 (v 思いやる) 目標:「交流活動を通して思いやる力を高めよう。」




段階	導入	展開 1	展開 2	まとめ	
	つくる	発揮する		生かす	
	1 次	2 次 (事例 3)	3 次	4 次	5 次
ねらい	価値づけ	発揮する	発揮する	よさ実感・意欲	よさ実感・意欲
教科等	学級活動 1/2	道徳 1/1	<b>学校行事</b>	社会 2/5	体育 1/8
題材/教材	小連体のめあて	ミッキーの誕生	小連体	町人の文化と新しい学問	マット運動
目標	・小連体成功に向けて児童の <b>具体的な行動</b> について話し合うことができる。	・ <b>困難を乗り越えるためにできることを考える</b> ことができる。	・めあて達成を目指し、 <b>力を発揮</b> しようとする。	・江戸の文化がどのようなものかを知り、 <b>現在との関わり</b> について考えることができる。	・ポイントをチェックし、 <b>アドバイス</b> をすることができる。
交流活動	男女で小連体のめあてを話し合っている。	6 グループで <b>困難を乗り越えるために必要なことを意見</b> 交換する。		6 グループで江戸の文化を話し合っている。	ペアで技の改善点をアドバイスし合う。

4 授業の実際

(1) 事例1: ①教科横断的な単元・授業構成の工夫

②交流活動の工夫

ア 人間関係形成単元1 (iv 協力する) 第3次 体育 2019年5月23日 4校時  
 イ 本時の目標 ルールを守り仲間と協力して運動をしようとする。【関心・意欲・態度】  
 ウ 展 開

学習活動と人間関係形成能力を高める工夫(■)	児童の反応
<p>1 学習の準備をする</p> <p>(1) 準備運動をする</p> <p>(2) 学習のめあてを把握する</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">仲間と協力して体づくりの運動をしよう。</p> <p>■児童が「協力」という意味や行動を意識するために、運動会を例に挙げて具体的な行動を問う</p> <p><b>①教科横断的な単元・授業構成の工夫</b></p> <p>2 グループで運動をする</p> <p>(1) チームタップの運動を知る</p> <p>■児童が協力するために、各グループのめあてを決める上での条件例を提示する</p> <p>【条件例】</p> <p>タイム、 ボールの種類</p> <p>(2) チームタップの運動をする</p> <p>・4グループに分かれて運動する</p> <p>■児童が協力するために、作戦をたてる視点を与える</p> <p style="text-align: right;">(グループで作戦をたてている様子)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>【視点】</p> <p>①体の動かし方</p> <p>②並び方</p> <p>③声のかけ方</p> <p><b>②交流活動の工夫</b></p> </div>  <p>3 全員で運動をする</p> <p>(1) しっぽの運動を知る</p> <p>■児童が協力するために、作戦の視点を与える</p> <p>【視点】 ①体の動かし方 ②逃げ方 ③攻め方</p> <p><b>②交流活動の工夫</b></p> <p>(2) しっぽの運動をする</p> <p>4 まとめをする</p> <p>(1) 学習ノートで学習を振り返る</p> <p>(2) めあての達成度と理由を記入する</p> <p>ワークシートの記述</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎授業のめあての達成度..... <u>100</u> %</p> <p>なぜこの達成度になりましたか。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">チームタップでは工夫点のボールをなげるときに声をかけ合うこと、しっぽの運動では前だけでなく後ろにも気を付けていたけれど、しっぽをとりませんでしたので、うれしかったです。</p> </div>	<p>児童の反応</p> <p>T: 今日では皆さんで協力して運動をしてもらいます。先週の運動会では、皆さん協力して運動会を成功させていましたよね。</p> <p>「協力」にはどんなことがありましたか。</p> <p>C: 助けるかな。</p> <p>C: 綱引きで声をかけて協力した。</p> <p>C: 作戦をたてる。</p> <p>T: そうですね。今日は運動会のようにみんなで協力して運動をします。</p> <p>A グループ</p> <p>C: ボールを捕るときは、①体を前かがみにして捕ったほうがよい。ボールがバウンドするように少し強めで投げよう。</p> <p>B グループ</p> <p>C: できるだけ上に投げよう。②どどんつめて並んですぐ捕れるようにしよう。相手が捕りやすいように強く投げよう。</p> <p>C グループ</p> <p>C: 投げたらすぐ避けて、③「はい」と声をかけよう。</p> <p style="text-align: right;">(Cグループの運動をしている様子)</p> <p>D グループ</p> <p>C: ③声をかけてタイミングを揃えよう。</p> <p>C: ①体を回して取られないようにしよう。</p> <p>C: 前だけではなく、後ろにも注意しよう。</p>   <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎授業のめあての達成度..... <u>95</u> %</p> <p>なぜこの達成度になりましたか。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">仲間と協力して体づくりをすることができました。自分たちでたくさんをたててかつどうできました。これからたくさん協力して、学校や家でできるようにしたいです。</p> </div>

(2) 事例2 : ①教科横断的な単元・授業構成の工夫

②交流活動の工夫

ア 人間関係形成単元2 (v 思いやる) 第5次 学級活動 2019年8月30日 4校時  
 イ 本時の目標 トラブル解決のポイントを知り, 自分や相手のことを考えながら対処しようとする。 【関心・意欲・態度】

ウ 展開 SEL<sup>6</sup>を活用

学習活動と人間関係形成能力を高める工夫(■)	児童の反応
<p><b>1 学習の見通しをもつ</b>                      (1)日常生活でのトラブルの状況を知る                      ■児童がトラブル解決の必要性を感じるために, 実際に経験したトラブルの内容とその解決方法について問う</p> <p><b>①教科横断的な単元・授業構成の工夫</b>                      (2)本時のめあてと題材を把握する                      「トラブルを解決しよう。」</p> <p>■事前アンケートを実施し, 児童の経験と学習内容を関連付ける</p> <p><b>①教科横断的な単元・授業構成の工夫</b></p> <p><b>2 トラブル解決のポイントを知る</b>                      (1)多くの解決方法を考える                      (2)結果を予想する</p> <div data-bbox="191 918 766 1232"> <p>①目標を明らかにする (みんなで考えよう)。 あきら</p> <p>ワークシート</p> <p>②多くの解決方法を考える。 こうた</p> <p>③結果を予想する。 よそ男</p> </div> <p><b>3 トラブルの解決方法について考える</b>                      (1)どの解決方法が自分に合っているかを考える                      (2)グループで発表する                      ■児童が思いやるために, 解決方法を分類し, 整理する</p> <p><b>①教科横断的な単元・授業構成の工夫</b>                      (グループで発表している様子)</p> <div data-bbox="446 1456 782 1680"> </div> <p><b>4 学習の振り返りをする</b>                      (1)学習の振り返りをする                      (2)交流活動を振り返る                      ■児童が自身の行動を振り返るために, 授業の終末に人間関係形成の自己評価の場を設ける</p> <div data-bbox="167 1769 343 1803"> <p>ワークシートの記述</p> </div> <div data-bbox="167 1814 893 1993"> <p>今日の勉強の内容は、自分も体験したことがある。とても分かると思いが、授業に取り込むことができました。なので、今日習ったことを忘れずにこういうことがあったときにいかにしようと思います。</p> </div>	<p>児童の反応</p> <p>題材                      あなたは友達と休み時間にボールで遊ぶ約束をしていました。休み時間になり, 別の友達たちがボールで遊ぼうとしていました。</p> <p>事前アンケートの記述から                      ・友達がわがままを言っていた。気を遣って何も言えなかった。                      ・友達や兄弟から嫌なことを言われ, とてもショックだった。                      ・イライラした。</p> <p>トラブル解決のポイント                      ①目標を明らかにする                      私はボールで遊びたい。                      ②多くの解決方法を考える                      ③結果を予想する                      C:時間で交代する。→予想:平等に遊べる。                      C:諦める。別な遊びをする。                      →予想:嫌な気持ちになる。                      C:一緒に遊ぶ。→予想:みんなが遊べる。                      ④最もよい方法を決定する                      C:一緒に遊ぶ。理由:長く遊べて楽しいから。                      C:また今度遊ぶ。                      理由:ケンカにならないようにしたいから。</p> <p>解決方法を分類した板書</p> <div data-bbox="805 1344 1420 1612"> <p>自分が遊ぶ</p> <p>相手が遊ぶ</p> <p>いっしょに遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「遊びたい」と伝える</li> <li>・時間に分ける</li> <li>・諦める</li> <li>・別の遊び</li> <li>・次の日に遊ぶ</li> <li>・また今度にする</li> </ul> </div> <p>交流活動の振り返りの記述</p> <div data-bbox="909 1680 1420 1993"> <p>☆友達との活動で気づいたこと・感じたことを書きましょう。</p> <p>みんなそれぞれのちがう意見や理由があって、いっしょに遊ぼうとした。自分でも予想ができてきたのでよかった。これを生かしてみようと思いました。</p> </div>



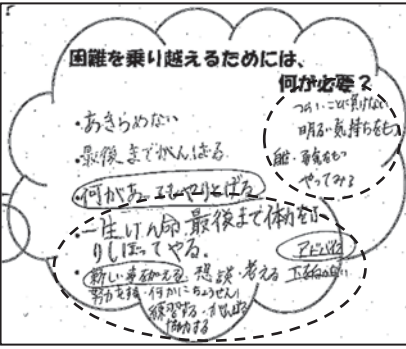
(3) 事例3 : ①教科横断的な単元・授業構成の工夫

②交流活動の工夫

ア 人間関係形成単元3 (v 思いやる) 第2次 道徳 2019年9月5日 4校時  
 イ 本時の目標 困難を乗り越えるためにできることを考えようとしている。

【関心・意欲・態度】

ウ 展 開

学習活動と人間関係形成能力を高める工夫(■)	児童の反応
<p><b>1 教材を知る</b>                      (1) 成功した経験を思い出す                      ■ 学習内容を自分事として捉えるために、成功した運動会を思い出す発問をする  <b>①教科横断的な単元・授業構成の工夫</b>                      (2) 「ミッキーマウスの誕生」を聞く</p> <p><b>2 教材の人物の心情を考える</b>                      (1) ディズニーの気持ちを考える                      ■ ウォルト・ディズニーの経験を理解するために、出来事や心情を時系列で板書する  <b>②交流活動の工夫</b></p>	<p>児童の反応                      T: 皆さんは、成功した経験はありますか。                      最近だと、<b>運動会</b>がありますね。運動会はなぜ成功できたと思いますか。                      C: みんなでがんばったから。                      C: 自分が満足できたから。                      T: そうですね。今日はある人の経験したお話を見てもらいます。</p> <p><b>時系列で表している板書</b></p> 
<p><b>3 困難を乗り越えることについて考える</b>                      (1) 困難を乗り越えるために何が必要かを考える                      ■ 考えの違いや共通点に気づくために、グループで意見交換する  <b>②交流活動の工夫</b>                      (2) 考えを発表する                      (自分の考えを発表している様子)</p>  <p>(3) 困難を乗り越えるために一番大切なことを考える</p>	<p>T: 皆さんが困難なことを乗り越えるためには、何が必要ですか。まずは自分で考えてください。次にグループで<b>意見交換</b>をしましょう。<b>なるほどと思った考えを青で書きましょう。</b></p> <p><b>ワークシートの記述(こ)が青の記述部分)</b></p>  <p>T: 考えを発表してください。                      C: 下を向かないことです。                      C: 自分なりにやること。                      C: 私は友達に相談します。                      C: 諦めない気持ちをもつことです。</p>
<p><b>4 学習の振り返りをする</b>                      (1) 学習の振り返りを書く                      (2) 発表する                      (3) 交流活動を振り返る                      ■ 児童が自身の行動を振り返るために、授業の終末で人間関係形成の自己評価の場を設ける  <b>児童の振り返りの記述</b></p> <p>学習の振り返り  <u>みんなが発表し合うとできてよかった。考えができて、いいと思いました。ぼくは最後までやることを大切にしていきたいと思いました。</u></p> <p>学習の振り返り  <u>困難なことを乗り越えるために必要なのは、あきらめない気持ちと、他の人と協力することだと思いました。もし、困難を乗り越えるときにこの2つをがんばりたいと思いました。</u></p>	<p><b>交流活動の振り返りの記述</b>  <b>☆友達との活動で気づいたこと・感じたことを書きましょう。</b></p> <p><u>みんなの意見を聞いてみて、そうなんだ。あ〜、なとと反応する事ができました。皆意見が同じだったり違ったりしたのでお互いに認め合う事ができました。一人一人の意見を出し合えば認められるので、意見を出し合えばいいんだな、と思いました。</u></p>

## VIII 結果と考察

### 1 「他教科や学校生活において人間関係形成能力を生かすことができたか」について

授業では、各教科等の学習内容や学習方法を関連付けたり、児童の生活と関連付けたりすることで、**他教科や学校生活において人間関係形成能力を生かす**ことをねらった。

#### (1) 人間関係形成単元1(iv 協力する)

第3次の体育(事例1)では、協力することを発揮できた運動会のように、本時も協力して運動するように促した。また、運動会ではどんな協力したことがあったかを具体的に考えさせ、本時の行動にも生かせるようにした。児童は、学習ノートにどのような協力できたかを具体的に書いていた。また、「協力することを学校や家でもしていきたい。」(事例1ワークシート)という積極的な行動意志を示した記述も見られた。このことから、教科等の学習内容を関連付けることで、児童は人間関係形成能力を生かせることを理解し、これからの生活への意欲につながったと言える。

第4次では、運動会や体育のようにみんなで協力しながら教え合いをする活動を設定したところ、わからない児童にヒントや考え方を教えている姿が見られた。本時のみならず、次時以降の算数の授業でも自然と協力して教え合っている姿が見られた(写真1)。協力して教え合いをしたことで、児童はできたという達成感をもち、「計算がおもしろいと思えた。これからも解いていきたい。」という次への意欲につながっていた。このことから、各教科等の学習方法を関連付けることで、人間関係形成能力を生かす意欲を高めることができると考える。

(写真1)教え合いをしている様子



#### (2) 人間関係形成単元2(v 思いやる)

第5次の学級活動(事例2)では、児童の生活と学習内容を関連付けるために、事前アンケートを実施し、児童の経験したトラブルと同様のトラブルを題材とした。児童は、「自分も経験したことがあってわかると思った。」(事例2ワークシート)と自分の経験と照らし合わせてトラブルの解決方法を考えていた。また、「生かしていきたいと思った。」(事例2交流活動の振り返り)という記述から、これからの生活で学びを生かそうとする意欲を高めることができたと考えられる。

### 2 「活発な交流活動を行うことができたか」について

交流する視点を与えたり、自分の考えをもたせたりすることで、**活発な交流活動をする**ことをねらった。

#### (1) 人間関係形成単元1(iv 協力する)

第3次の体育(事例1)では、チームタッグの運動とタイムを早くするための作戦をたてる活動を交互に数回行った。作戦をたてる活動を活発にするために、①体の動かし方②並び方③声のかけ方の視点を与えた。すると児童は、3つの視点をもとに【視①】「高く投げる。」「視③】「声をかけあって素早くよける。」などの具体的な作戦をたてることができた。また、振り返りでは、めあての達成度(事例1ワークシートの記述)を100%と書いた児童が半数を超え、90%以上と書いた児童も含めると全体の9割を超えていた。このことから、児童は協力して作戦をたてることができ、活発な交流活動を行うことができたと言える。

#### (2) 人間関係形成単元3(v 思いやる)

第2次の道徳(事例3)では、困難を乗り越えるために必要なことについて考え、グループで意見交換をし、最後に意見交換を踏まえて最終的な自分の考えを出すという流れで活動を行った。児童の一人一人に考えをもたせてから意見交換をすることで、友達のことを意欲的に聞いている姿が見られた。また、意見交換から友達の考えを取り入れたり、認めたりする記述が見られた(事例3ワークシートの記述)。このことから、活発な交流活動ができ、思いやる要素を発揮することができたと考えられる。



### 3 全体考察

「人間関係形成能力を育むことができたか」について

人間関係形成単元1・2の事前と事後において、(1)「学校生活アンケート」を実施し、児童の人間関係形成能力の変容をみた。また、人間関係形成単元2では、(2)「学習ノート」を作成し、授業の終末に交流活動についての振り返りやレーダーチャートによる自己評価をして、友達との交流活動を振り返る場を設定し、変容をみた。

#### (1) 学校生活アンケートの結果から

学校生活アンケートは、単元1において12項目、単元2では単元1から7項目増やし合計19項目の質問を行った。事前アンケートでは、ほとんどの項目の数値が高く、事後アンケートにおいて有意な数値の変化が見られなかった。

#### (2) 学習ノートの結果から

人間関係形成単元2・3では、授業の毎時間の振り返りでレーダーチャートと交流活動の振り返りを書く時間を設定した。レーダーチャートでは、5つの人間関係形成能力の要素を4段階で自己評価をさせ、児童が能力の高まりを自覚できるようにした(図5)。交流活動の振り返りでは、友達と交流して気づいたことや感じたことを記述させた。

##### ①レーダーチャートの数値

人間関係形成能力(4段階評価×5要素)の平均値を比較した。

図6・7は、単元の段階ごとにレーダーチャートの数値の平均値を比較したものである。

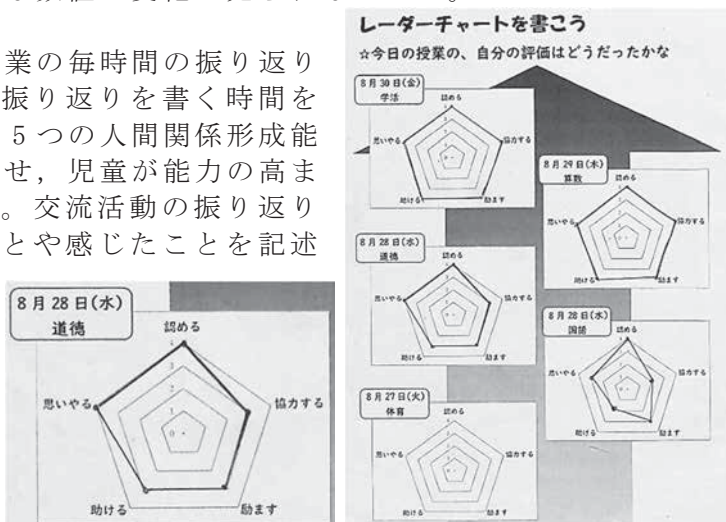


図5 学習ノートのレーダーチャート

単元2(図6)では、第1次の平均値が17.75に対して、第5次の平均値は19.05であり、1.3の数値の向上が見られた。また、授業を行うにつれて、数値が段階的に向上していることがわかる。このことから、つくる・発揮する・生かすの場面で段階的に人間関係形成能力は高まっていると言える。第1次の体育では、女子のみを対象とした授業であったため人数が少なく、交流活動や運動が普段よりも活発に行われた。そのため、数値が高かったと考えられる。

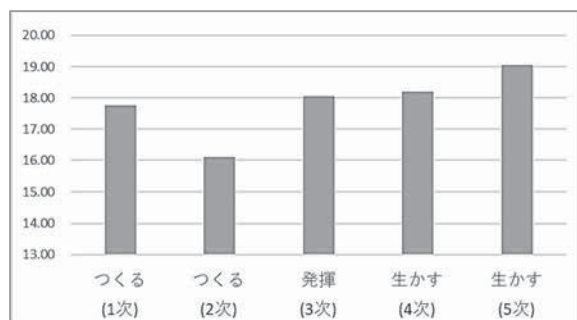


図6 単元2の段階別平均値

単元3(図7)では、第3次の発揮する段階の数値が高く、それ以外は段階的に高まっていた。第1次と第5次では、1.36の数値の向上が見られた。発揮する段階では、学校行事を設定したため、児童が自分の考えを行動に移しやすく意欲的に活動できていた。そのため人間関係形成能力を発揮しやすかったと考える。この結果から学校行事は人間関係形成能力を発揮する場面として効果的であると言える。また、高めようとした要素のみならず、他の要素の数値も向上していたことから、人間関係形成能力は互いに関連していることが分かった。

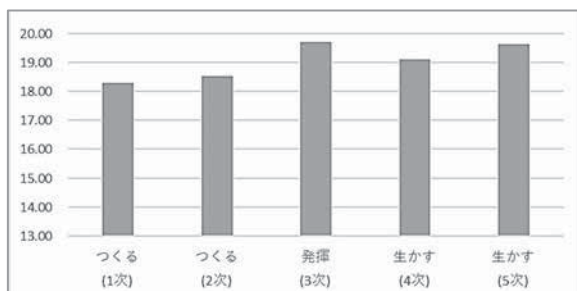


図7 単元3の段階別平均値

## ②記述

人間関係形成単元の「つくる・発揮する・生かす」段階ごとの授業のねらいに対して、以下の児童の交流活動の振り返りの記述が見られた(図8)。

単元2	教科等	授業のねらい	記述	割合
つくる	体育	価値づける 楽しさを味わう	・友達のおかげでわかった ・活動してよかった ・協力することが楽しい	77%
	国語	価値づける	・活動をして気づけた ・印象がよいとわかった	94%
発揮	道徳	発揮する	・友達の考えを認めることができた ・本当の友達とは～する関係だ	90%
生かす	算数	よさを実感する 生かそうとする意欲を高める	・友達と活動したおかげでできた ・協力することができた ・協力は大切だと思った ・これからも協力したい ・またやってみたい	80%
	学活	よさを実感する 生かそうとする意欲を高める	・共感できた ・いろんな考えを認めることができた ・この勉強を生かしたい	75%
単元3	教科等	授業のねらい	記述	割合
つくる	学活	価値づける	・相手のことを考えて応援する ・みんなの意見を合わせたためあてを考えた	66%
	道徳	発揮する	・友達の考えを認めることができた ・思いやることが大切だと思った	66%
生かす	行事	発揮する		
	社会	よさを実感する 生かそうとする意欲を高める	・友達と協力してよいまとめが書けた ・受け継がれた文化がなくならないようにしたい	35%
	体育	よさを実感する 生かそうとする意欲を高める	・べアのおかげでできた ・アドバイスすることができた ・またこの活動をやりたい	66%

図8 交流活動の記述

単元2では、どの段階も70%以上の児童がねらいに即した記述を書いていた。このことから、授業のねらいと児童の学びが一致していることが分かる。しかし、単元3では、単元2と比較し、どの段階も割合が低かった。これは、人間関係形成に関する記述ではなく、学習内容についての記述が多かったことが原因と考えられる。このことから、交流活動の振り返りの書き方の指示を明確に行う必要があったと考えられる。

## Ⅹ 研究の成果と課題

成果として、人間関係形成単元を「つくる・発揮する・生かす」の段階で構成し、交流活動を活発にすることで、人間関係形成能力を育むことができた。また、人間関係形成単元の教科等を学習内容に関わるものと学習方法に関わるもので分類し、編成することで人間関係形成能力を育むことが可能となった。特に、学校行事を発揮する段階に設定することで、児童が人間関係形成能力をより発揮できることが明らかになった。さらに、交流活動をするにあたって交流する視点を与えたり、自分の考えをもたせたりすることで活発な交流活動をすることができた。

課題として、交流活動の振り返りの仕方が挙げられる。学習方法に関わる教科等の場合、学習内容についての振り返りを書いてしまう児童が見られた。そのため、活動の振り返りを意識させるような指示を行うことで、児童が交流活動のよさに気づくことができると考える。

今回は、人間関係形成能力を学校の授業や学校生活でつくり、発揮し、生かすことをねらった。今後は、それに加えて学校生活での学びや生活を家庭や地域での生活に生かすための事後の活動実践と評価を行っていきたい。

## 【引用参考文献】

- 1 内閣府(2007)「低年齢少年の生活と意識に関する調査報告書」
- 2 文部科学省(2017)「小学校学習指導要領解説 特別活動編」pp. 11-12
- 3 文部科学省(2017)「小学校学習指導要領解説 総則編」pp. 38
- 4 河村茂雄(2007)「データが語る②子供の実態」図書文化 pp. 106-108
- 5 日本特別活動学会(2011)「特別活動における人間関係の形成に関する調査報告書」
- 6 小泉令三 山田洋平(2011)「社会性の情動の学習の(SEL-8S)進め方」pp. 182-185